

## 安土城築城450年②

### 安土城廃城から近代まで

今回は1579(天正7)年に  
天主が完成し、1584(天正  
12)年に廃城となった安土城の  
その後について紹介します。

安土城は1582年の火災に  
より主郭部が被害を受けました  
が、この時点では廃城とはなら  
ず、実質的な廃城は1584年  
の小牧・長久手の戦いによる織  
田氏の衰退時とされています。  
しかし廃城となって以降も、  
城跡が荒廃していたわけではあ  
りません。安土山には信長が建  
立した摠見寺が残っており、江  
戸時代を通じて城跡の管理と整  
備が行われました。1592年  
には豊臣秀吉から摠見寺に寺領  
100石が与えられています。  
1604(慶長9)年には豊臣秀  
頼による書院と庫裡の建立、そ

の後も1617(元和3)年には  
徳川秀忠から現在の安土町下豊  
浦が寺領として与えられており、  
合計227石となっています。

同時に安土山一円における支配  
権も得ており明治時代まで引き  
継がれます。摠見寺は信長の菩  
提寺として50年毎に遠忌供養が  
行われるなど、信長ゆかりの地  
としての役割を担い続けました。  
1854(嘉永7)年には火災に  
より本堂、書院、庫裡など主要  
な建物が焼失し、現在安土山内  
に残存する信長期の建物は、摠  
見寺の楼門(二王門)と三重塔  
のみとなっています。



摠見寺三重塔

となりました。その後は全国的  
な文化財保護の流れの中で安土  
城跡も保護の対象となります。  
現在の「文化財保護法」の前身  
の一つ「古社寺保存法」の特別  
保護建造物として、1901年  
(明治34年)に摠見寺の三重塔が、  
1903年には楼門が文化財の  
指定を受けます。また1918  
(大正7)年には安土城跡と織田  
信長を顕彰するため「安土保勝  
会」が設立され、1926年に  
は「史蹟名勝天然記念物保存法」  
により安土城跡が史蹟に指定さ  
れました。

このことを契機に城跡の整備  
が進められ、大手道口、百々橋口、  
東門口にそれぞれ石標が建立さ  
れます。当時の摠見寺和尚であ  
り安土保勝会の発起人である松  
岡範宗は、以前安土城跡の案内  
で知り合ったジャーナリストの  
徳富蘇峰に、石標に刻む「安土



百々橋口石標「安土城跡」



大手道口石標「安土城址」

城址」、「安土城跡」の揮毫を依  
頼します。また織田信忠邸跡に  
は、蘇峰によって刻まれた信長  
を讃えた漢詩の石碑が建ち、裏  
面には『近江蒲生郡志』をばじ  
めとした郡史・町史編纂で有名  
な中川泉川が詩碑建立の経緯を  
記しています。松岡範宗、徳富  
蘇峰、中川泉川は安土城の案内  
で知り合っており、石標の建  
立や蘇峰の文筆活動を支援する  
「蘇峰会」を通じて交流が続いた  
ようです。

こうした時の偉人たちの功績  
もあり、近代以降現在に至るま  
で安土城跡は荒廃することなく  
管理・整備が行われていくこと  
となります。

文(文化振興課・和田)

人口と世帯 令和8年4月1日現在  
( )は前月比

総数	81,639人	(- 52)
男	40,138人	(- 28)
女	41,525人	(- 24)
世帯	36,452世帯	(+ 100)

※外国人住民(43か国・地域/2,406人)を含みます。

YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE

